

平成30年度 円山川流域懇談会「事業実施報告会」 議事骨子

日 時： 平成30年10月26日(金)14時15分から16時15分
場 所： 円山川防災センター 会議室

■議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
 - 1) 現地視察の感想、意見交換
 - 2) 第2回円山川流域懇談会の主な意見と対応について [資料2]
 - 3) 進捗点検に関する報告 [資料3]
 - 4) その他
 - ・中郷遊水地の整備概要 [資料4]
 - ・平成30年度7月豪雨の整備効果について [資料5]
 - ・平成31年度 現地視察・第3回流域懇談会の予定
4. 閉会

■審議内容

1) 現地視察の感想、意見交換

事業実施報告会に先立ち実施された現地視察の感想、意見等は以下のとおりであった。

【音田委員】一番印象に残っているのは中郷遊水地である。河道内遊水地の今後に強い興味を持った。

【岡本委員】中郷遊水地には私も興味を持っており、今後に期待している。7月豪雨により土砂が流れてきていると感じている。下流の浚渫した区間の安全度が下がらないように上流で取って頂きたい。一日市島に生えている木が台風で流されて下流の橋に引っかからないか心配している。

【畑委員】日置地区は輪中堤整備により安心して住めるようになると思うが、輪中堤の必要な箇所が他にはないのか、どのように地区を選定しているのかについて知りたく思った。中郷遊水地の今後の利用方法や水の制御方法はどのようになされるのかについてもよく知りたい。また、遊水地整備後の避難のプロセスをどうするのかも重要となる。

【福井委員】一日市島が小さくなっているが撤去すべきだと思う。ひのそ島も先端部分が小さくなっているが保全されるのであれば杭を打つか石を積むなど対策をしないと一日市島と同じようになる。崩れてしまうと河道が埋まってしまうので対策を考えて欲しい。

【神田委員】現地は行けなかったが、先月の自然再生の技術部会の際に加陽に行った。上流に砂だめと水制工を作ったところであるが、砂だめには7月の出水により砂や礫が貯まっていた一方、湿地の池にはあまり砂が貯まっておらず、制御施設として効果を発揮していた。

【佐川委員】先週、九頭竜川支川の日野川の自然再生を見てきたが、円山川や日野川の自然再生地は全国的に注目されていて参考にされている。今後も環境に配慮していく必要があると感じた。さまざまなワンドを作っている中で、開口部をつくっているところは計算では埋まらないということであったが出水で埋まってしまった。

【藤田委員】畑委員からどのような観点で事業を行うのかという質問があったが、通常ではB/Cをまず第一に検討して妥当性が判断される。その一方ではナショナルミニマムという観点も重要であって、人の命や生活の基盤を守るために整備が進められてきたと思う。中郷では基盤漏水があったということであるが事業を進めるうえではきめ細かい対応が必要であると感じた。

2) 平成 29 年度事業実施報告会の主な意見と対応について（資料 2）

平成 29 年度事業実施報告会の主な意見と対応について、事務局から資料に基づいて説明があり、それについて以下のような質疑があった。

【福井委員】稲葉川合流点については土砂が流されているのだから止めないと、下流の淵の深みが埋まってしまう。稲葉川合流部より上流の円山川右岸に設置した工事用道路を残すということで合意したのに、それが守られていない。稲葉川の河床を止めないといけないのではないのか。

【藤田委員】写真は昨年度の写真であるが今年度の出水でどうなったのか。下流の淵が埋まったのではないかとの話であるがどのようにになっているのか。国としてどのように考えているのか教えて欲しい。

【事務局】ご指摘のとおりだと思っている。円山川本川の護岸、稲葉川の河床低下を防ぐために根固めブロックなどを設置しているがモニタリングをしながら、土砂を止める対策となるのか、根固めブロックを設置するのかなどを検討したい。

【藤田委員】上流の円山川左岸の護岸周辺も洗掘されているのでしっかり検討して頂きたい。

3) 進捗点検に関する報告（資料 3）

進捗点検に関して事務局から資料に基づいて説明があり、それについて以下のような意見が出された。

【福井委員】下鶴井地区で残置するとしていた船着き場がすべて湿地帯になっているので、その部分を削除して頂きたい。

【事務局】図面を差し替える。

【藤田委員】加陽地区の湿地再生が 100%になったので、こういう場合は維持管理やモニタリングに項目を移すといった扱いにしてはどうか。

【岡本委員】河道内樹木の管理は適切に実施されていると思うが、出石川の天神橋の下流は木が大きくなってきている。点検をお願いしたい。

【藤田委員】河道内樹木の管理に関しては輪伐計画により進められている。ここでは公募伐採ということであるが一般の方が高木を切るのは普通難しいので伐採後の木を引き取ってもらうことも考えてみてはどうか。

【畑委員】堤防、護岸の管理は所内の点検結果だと思うが市民からの点検の情報も含まれるのか。

【事務局】記載している数値は国で点検した結果であり市民からの情報は含まれていない。市民からの声を聴くということでは、ホームページなどにより行っており、問い合わせ等は月に一、二回ある。樹木の伐採や台風後のゴミの収集といったすぐには対応できない事項が多いが、できることは対応している。河川愛護モニター制度により一般の方が気付いたことを報告して頂いている。

【畑委員】愛護活動、ボランティア活動はあるのか。

【事務局】個人レベルの物は把握していないが、田畑が隣接している方が草刈りをされたことなどはあるかと思う。さくら堤を整備している日高町では地元で愛護会のような組織によりさくら堤に隣接する堤防の除草や清掃をして頂いているところもある。

【神田委員】地域の方による愛護活動が伸び悩んでいるが、伸ばすような取り組みやアイデアがあるのか。樹木伐採や清掃のマニュアル、道具の貸し出しについてはどのようにになっているのか。

【事務局】加陽地区づくり委員会を河川協力団体に認定している。河川協力団体になっていただくと、今は確定していないが、道具や金銭面の支援ができないか模索している。また、国土交通省では手づくり郷土賞として地域で活動されている方を表彰する制度があり、活動されている団体のモチベーションを上げる試みを行っている。また、組織的になっていないところと連絡を取って、組織的な活動をして頂けないか意見交換、情報収集などに取り組んでいる。

【神田委員】アドプト制度については国もされているのか。

【事務局】道路については行っているが河川ではない。

【福井委員】「円山川菜の花の会」のように地道に活動している団体もある。何をもって認定しているのか。

【事務局】河川愛護団体については規約があって代表者や会計がしっかりしていること、3年以上の活動実績あることなどの基準がある。

【藤田委員】竹林について袋詰玉石で対応して頂いたとのことだが維持管理で行ったのか。どういう方法が良いのかは現場を見て決める必要があると思う。

【事務局】樹木の状態、環境の状況を確認したうえで伐採などを今後も行っていく予定である。自然再生委員会でも助言を頂きたいと考えている。

【福井委員】流域委員会での計画では一日市島を取ると言われたがそのままになっている。枯れた樹木が河川内に流れ出てしまい城崎大橋に架かってしまう。島を取るべきである。私は一日市島を取って欲しいと言っていた。国が、人命が大事なので取るといった。奈佐川下流で掘削がストップしてしまったにもかかわらず中郷の問題ができたので反対している。中郷がいいとか悪いとかではなく約束を途中で破っておいて、ほったらかしにして自然に破壊されている。現状をそのままにしておいていいのかということ。

【藤田委員】どういった河道計画で整備計画を考えていたかがベースにある。管理対象は計画高水位として検討された結果、現況のような形で進められてきたと思う。取るものが残された影響については説明が必要である。

【事務局】樹木については流れて橋に架かったということはありません。必要であれば伐採する。堆積土砂については現状を把握したうえで必要な除去を行っていく。

【藤田委員】定期横断測量は200mピッチなので、その間に貯まっているところもあるので細かく把握してもらいたい。

4) その他

・中郷遊水地の整備概要、平成30年度7月豪雨の整備効果について

中郷遊水地の整備概要、平成30年度7月豪雨の整備効果について、事務局から資料に基づいて説明があり、それについて以下のような意見が出された。

【神田委員】河床変量は何に対する河床変動量なのか。ケース0とケース1の差分、変化量、ケース0とケース2との変化量を図にして頂くともっとよくわかると思う。流速ベクトル図もどういう条件でされたのか教えて欲しい。

【事務局】近年10ヶ年の代表洪水6パターンを50年間繰り返した場合にどのような変化がでるかを計算している。結果としてこれが50年後の姿ということになるが、一次元で変動の激しいところということでこの範囲を選んでいる。

【神田委員】池の中については河床変動計算をしていないのか。

【事務局】池の中も含めて河床変動解析を行っているが、結果として池の中は変動が無いこととなっている。ウォッシュロード等の細粒砂については貯まる可能性は残っている。

【佐川委員】改変に伴い水生動物に影響が出ることについてどのように整理されるのか。（物理条件が）変化していないといわれても魚は少しの変化でも影響を受ける。特に心配しているのは魚が流されるのではないかとことである。今は流心部から徐々に上がっていくので横に逃げられるが、整備後は逃げられなくなり、下流に行くしかなくなる。流速に対しては急激な変化が生じるので対応ができない。河床自体も変わると思う。アユの産卵なども心配である。そのあたりを考えて頂きたい。

【畑委員】（計画規模までの洪水では）河道の水位が下がっているが、これ以上の洪水になると遊水地があってもオーバーしてくると考えられるので、これを超えるようなシミュレーションはやっている

のか。あと何時間効果が持つのかを予測しながら人の動きにつなげていかなければいけない。二山洪水の場合、遊水地の水位が下がる時間がどれくらいで、二山目にどれくらいの効果があるのか。排水時間も気になる。

【事務局】整備計画規模としては40分の1であるが、それ以上の規模ということで50分の1を想定して検討したのが右の図になる。立野地点では調節の有無にかかわらずピーク流量は5040m³/sとなっているが、同じ5040m³/sであっても、そこに至る上昇速度が抑えられていてピークを迎えるまでに時間をかせぐことができる。二山洪水の場合もシミュレーションしており、一山目で水位が下がって上池で排水できるタイミングがあって二山目をむかえる形となる。実際の操作はシビアになると思うが二山でも運用につなげていきたい。

【藤田委員】二山目でピーク水位が上がっているが、これが排水しきれていなかった影響と考えられる。排水しきれていれば一山目と同じように上がらなかった可能性がある。

【畑委員】流木を遊水地に誘導するような方策は考えられないのか。

【事務局】検討できればと思う。

【岡本委員】このような中郷遊水地の説明は初めてと思うが、地元や自治体に対する説明は必要でないか。公開での説明会を検討して頂きたい。

【藤田委員】公開すると色々なところから説明を求められるので、本日の意見を参考に環境面も含めて理解して頂きながら進めて頂きたい。

【事務局】シミュレーションでは（物理環境には）変化がないと予測しているだけで、生物相には影響はあると思うので、どのように影響が出るのか自然再生委員会も含めてダメージについては分析していきたい。地元への説明については関係する団体からも意見、要望を頂いているので地元へ返答していきたい。

【藤田委員】21年と25年の定期横断図において25年断面の左岸側が前に出ているが理由は何か。

【事務局】確認する。

・平成31年度 現地視察・第3回流域懇談会の予定

事務局より平成31年度に流域懇談会を年度の早い時期に開始する予定であることが説明された。

以上